

▷日本でごみ処理にかかっている費用が 2 兆円に上ることに驚きました。正直水分の多い生ごみを水気を切らずにそのまま捨てていたこともあり、燃えずらい生ごみ をお金をかけて燃やしている、海外の水資源を奪って捨てている、という指摘に自分がいかに無自覚に食品ロスに加担していたかを痛感しました。消費者である私たちの行動がメーカーや小売段階での食品ロスを誘発しているところもあることを知りましたので、まずは買い物の仕方から改めようと思います。

▷食品ロスという言葉や何となくのイメージはありましたが、内容について詳しく話を聞いたのは初めてでしたので新たな気づきや知識を得ることができ大変有意義でした。家庭での問題、社会構造の問題、これまでの自分のように無知であることゆえの問題などさまざまな要素が膨大な食品ロスを生み出していることを実感しました。これまで多くのラインナップの商品を揃え、お店に商品が溢れていることが良い店・良い社会だと思っていましたが、閉店間際には生鮮食品やお惣菜を中心に商品がなくなっているお店、品薄や欠品の商品があるお店こそ本当は無駄をなくすことを考えていて評価されるべきなのだと気づきました。このようなことをみんなが知ることで社会が少しずつ変化していくのだと思います。自分もまだまだだと実感しましたし、継続して学びを続け自分自身をアップデートしていきたいです。

▷食品ロス問題は一番身近な問題で取組しやすいテーマではないかと思い、参加しました。単純に食品をムダにしないためにというお話ではなく、食品業界のしくみ、一般消費者の心理、地域の活動、税金とすべてが一連につながっていることを知ることができました。食品業界のしくみを政治的にも変えることができないことをお聞きして、消費者から声をあげることの大切さを感じました。また、私たち個人ができることがたくさんあると思いましたし、最後のフードライブについて、行動したいと思いました。

▷消費期限などの表記や猶予については、発信も多いのである程度は知っていましたが、欠品ペナルティに関してはあまり知らなかったし、知られていない事だと思います。余剰在庫や食品ロス廃棄に繋がるのであれば、年中一定供給ではなく季節の旬や鮮度を大切にする食生活・食育を進めるべきと思いました。海の近くに住んでいるので、シケで漁が無いと思われる日は、鮮魚専門店では当然に品数が減るのに、魚が多く並んでいるスーパーには違和感をいつも感じています。

社会全体が「当たり前」に有る」が大切なのでは無いと思える、意識・感覚になればいいなと思います。また、フードバンクも勤務先や身近な公民館で、スケジュールを組んだ回収が決まっていると、もっと寄付も協力もできると思います。参加したくても送料がかかったり、方法が分かりづらい事が問題と思うので、小規模でもっと盛り上げるべきと思いました。環境にやさしい発想・対応をしている企業・店舗の報道や情報も、もっと行うべきと思います。

▷「食品ロス」の権威者である講師の方のお話を直接聴講できて本当にためになりました。コロナ渦となり、友人知人より食品ロスのボランティアを依頼されたことがきっかけで「商品ロス」について深く考えるようになりました。個人でできること、勤務している企業として内部から働きかけできること、改めて考えることができました。「手前どり」「ロスになる食品を買う」「賞味期限切れは食べきる」など個人としてできることからしてはありましたが、自分だけでなく、周囲の方への働きかけ、また、企業内での働きかけを考え行動したいと思います。自然環境問題の中で、ごみ問題、特に日本の食品ごみについては非常に憤りを感じております。国民の税金を使用して廃棄することは企業としての今後の取り組みを改善することが最も重要であり、国としても、企業に対し厳しく税対策の改善をするべきだと考えます。そういう面でも、まずは一人一人の国民が、「事実」を知り、「行動」を起こし、「変革」を行うべき時期です。企業内にとどまらず、NPO 法人等、自分自身でも参画できる場所を探し行動を起こしたいと思います。今回も非常に有意義な講義をありがとうございました!

▷井出先生の講義は食品ロス問題の捉え方、背景などを含め丁寧な解説で大変分かりやすかった。個人としては、食品ロスに対するマインドセット、一人ひとりが意識を持って対応する当事者意識を改めてしっかり持つ大切さを感じた。その一方で、個人の取り組みとして、企業として、国(政治)として取り組むことで貢献できる W/T には大きな違いがあるのではないかと印象も正直持った。個人意識がそれらを将来発展的に支えるとも思うものの、個人および個人が勤める企業組織意識(企業全体ではない)だけでは限界があるのではないかと。

▷いつも買い物に行くと消費期限の長いモノをつい手に取ってしまいます。環境問題には関心を持っているつもりでも、目の前の問題から目を背けている自分がいます。今回の研修でも驚かされる数値が沢山ありました。また、世界各国、国内各地の実際の取り組みを紹介いただき、環境問題を自分ごととして考えるきっかけになりました。環境問題の解決は如何に多くの人が関わるかがカギになると感じています。多くの人が環境問題に関心を持つためには、

教育が一番の近道であると感じました。

▷食品ロス問題が、社会全体の仕組みから個人の生活習慣まで、様々な要素が複雑に絡んだ、難しい問題であるということがよくわかりました。「欠品ペナルティ」などの商慣習や、コンビニの年間の食品廃棄量などは、日本社会の大きな課題ですね。また、スーパーで奥の商品を取るなど個人としても食品ロスとコストアップを発生させていることも認識しました。

他人事ではありません。自分事としてまず自身の意識と行動を変え、周囲の人とも共有してみようと思います。

▷まず講師で登壇された井出留美さんの本を買いました。そして課員に啓蒙しました。賞味期限の嘘について等食品ロスの深いところ、つまり捨てることが最大の罪であることを今回知るところとなりましたので、課員のみならず、家族、友達等にも啓蒙するとともに、まず自分が出来る事から取組を始めようと思いました。学びの機会をいただきありがとうございました。